

2026 年 6 月 30 日

サイバートラスト株式会社

代表取締役社長 北村 裕司

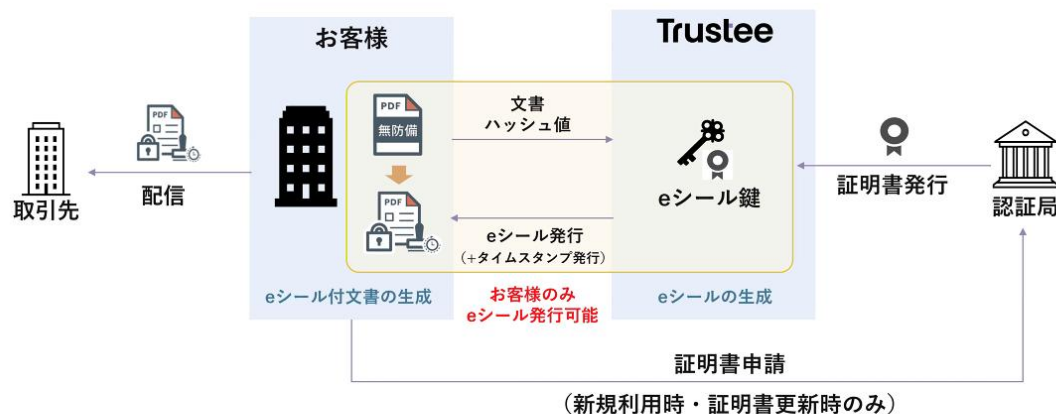
東証グロース：4498

AI による改ざんリスクに対応するデジタルトラストサービス第 2 弾 「Trustee e シール」を提供開始

ウイングアークとサイバートラストが共同開発し、
帳票データが生まれた瞬間から「誰が発行したか」「いつ存在していたか」を証明

ウイングアーク 1 s t 株式会社（本社：東京都港区、代表取締役 社長執行役員
CEO：田中 潤 以下、ウイングアーク）とサイバートラスト株式会社（本社：東京都港区、
代表取締役社長：北村 裕司 以下、サイバートラスト）は、PDFの発行元を証明するデジ
タルトラスト「Trustee eシール（トラスティ イーシール）」を共同で開発し、2026年6月30日
（火）より提供開始します。

Trustee eシール仕組み



生成AIの浸透を背景に、電子文書に悪意ある指示や目視では確認できない偽情報が仕込まれるなど、改ざんリスクが高まっています。企業の商取引においては、真正性をどのように担保するかが重要な要素となります。

このような背景をうけ、ウイングアークは、PDFドキュメントの存在時刻を証明する「Trustee タイムスタンプ」（※1）に加え、新たにPDFドキュメントの発行元を証明する「Trustee eシール」をサイバートラストと共同開発しました。「Trustee eシール」は、サイバートラストが提供する「iTrust e シール用証明書」（※2）を採用し、帳票基盤である「Trustee」にeシールを付与する機能を拡張しています。

「Trustee eシール」をPDFに付与することで、「どの組織が、いつ発行したものか」を証明できます。受領者は発行元企業や法人番号を確認できるため、発行元企業を100%証明でき電子文書の信頼性を確実にします。

また、「Trustee e シール」契約ユーザーには、「Trustee タイムスタンプ」を無償で提供します。

- ・「誰が発行したか（Trustee e シール）」
- ・「いつ存在していたか（Trustee タイムスタンプ）」

の2つを組み合わせた証明により、電子文書の真正性を強固に担保できます。

本サービスは2026年3月に合意したAI時代のデジタルトラスト基盤構築に向けた協業の成果で、企業間取引の完全ペーパーレス化における法的な信頼性と業務効率の両立や、AI時代に即した高度なデータ活用社会の実現を推進するものです。（※3）

標準規格に準拠したPDF、eシール、タイムスタンプは将来的な互換性やベンダーフリーの柔軟性を保ちます。「iTrust e シール用証明書」を発行する電子認証局は、国際的な監査規格であるWebTrust for CAに合格のほか、JIPDECの厳格な基準に基づく審査を実施し、厳格な規程をもって運用されている「JIPDEC トラストッド・サービス登録（認証局）」を取得しています。「Trustee e シール」は、この厳格な運用基準に基づいて発行される「iTrust e シール用証明書」を採用することで、最高水準の信頼性を担保しています。

■AIによる改ざんリスクに対応する「Trustee」サービス

項目	Trustee e シール	Trustee タイムスタンプ
証明機能	◎発行元（法人を証明）	◎存在時刻を証明
改ざん検知	◎	◎
電子帳簿保存法対応の証明	—	◎（真実性確保）
証明発行社	電子認証局	時刻認証局

■「Trustee e シール」機能特長

URL : <https://www.wingarc.com/product/trustee/>

	機能	詳細
1	電子データ内容の保護	利用者が指定した署名対象のデータの内容は、本サービスへは送信されず、ハッシュ値のみが送信されるため、本サービスは電子データの内容を取り扱いません。
2	鍵の高度なセキュリティ管理	利用者の署名鍵は、FIPS 140-3 レベル 3 以上、又は ISO/IEC 15408 EAL4+以上の認定を受けた暗号モジュール（HSM）で安全に生成および管理されます。
3	厳格な認証要求	署名の付与前に、利用者による正当な依頼であることを確認するため、権限を有する利用者およびシステムの認証、ならびに署名鍵使用の認可を厳格に実施します。ログイン認証やアクセス制御等を通じ、組織が定めた権限者が適切な手続きで操作していることを確認します。 署名鍵が利用者以外使えないように技術的に担保する仕組みを取り入れています。
4	証明書の信頼性	電子証明書は、 Adobe Approved Trust List (AATL) に登録されている、信頼できる認証局により発行されたものを使用します。これにより、Adobe Acrobat で発行元証明と改ざんの有無を、直観的・視覚的に確認できます。
5	長期署名形式のサポート	署名生成アプリケーションが、本サービスから取得した署名値に加え、署名タイムスタンプと検証情報の埋め込み、およびアーカイブタイムスタンプの付与を行うことで、電子証明書の有効期限経過後も署名の真正性を長期にわたって検証可能とする 長期署名形式 (PAdES-LTV) の作成が可能となります。
6	可用性と運用継続性	本サービスは、あらかじめ通知したサービスメンテナンス期間および緊急メンテナンス時を除き、 24 時間 365 日のサービス を提供します。
7	国際標準規格	国際標準規格である CSC(Cloud Signature Consortium) API※をベースに、鍵所有者だけが署名鍵を使えるための仕組みを強化しています。 ※ https://cloudsignatureconsortium.org/ ※API 単体ではご利用できず、専用の「Trustee クライアントツール」が必要となります。ご契約者様には無償で提供されます。

(※1) 「Trustee タイムスタンプ」は令和3年度総務省告示第146号に係る認定時刻認証業務「ウイングアークタイムスタンプサービス」を使用しています。

https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01cyber01_02000001_00245.html

(※2) iTrust e シール用証明書について

iTrust e シール用証明書は、サイバートラストが厳格に審査した組織のみに向けて発行する「e シール用電子証明書」を活用し、組織が発行した電子文書に e シールを付与することで、発行元の証明と改ざん対策が可能で、電子文書に高い信頼性と真正性を確保することができます。

<https://www.cybertrust.co.jp/e-seal-certificate/>

(※3) ウイングアーク 1 s t とサイバートラスト、AI 時代のデジタルトラスト基盤構築に向け協業

<https://corp.wingarc.com/public/202603/news2957.html>

ウイングアーク 1 s t 株式会社について

ウイングアーク 1 s t は、業務処理における全ての帳票の効率的な運用を支援する帳票・文書管理ソリューションと、成長のための業務改革をデータ活用によって推進するデータエンパワーメントソリューションを提供しています。データに基づく意思決定・行動を支援する革新的なソフトウェア・サービスを提供することで、企業・団体がデータを最大限に活用しイノベーションを起こせる社会の未来をつくっていきます。2025 年にデジタルトラストサービス市場に参入し「Trustee」を提供開始しています。当社は「健康経営銘柄 2026」選定企業です。また、2024 年 1 月 31 日付で情報・通信業界として初となる人的資本に関する情報開示の国際的なガイドライン「ISO 30414」の認証を取得しています。

サイバートラスト株式会社について

サイバートラストは、日本初の商用電子認証局として 2000 年より提供している認証・セキュリティの技術を活用したトラストサービスと、Linux のカーネル技術やオープンソースソフトウェア (OSS) の知見を応用したオンプレミス、クラウド、組込み領域向けのプラットフォームサービスを展開しています。また、これらの技術や実績を組み合わせ、IoT をはじめとする先端分野に向けて、「ヒト・モノ・コト」の正しさを証明し、お客様のサービスの信頼性を支えるサービスを推進しています。

「すべてのヒト、モノ、コトに信頼を」。サイバートラストは、IT インフラに関わる専門性・中立性の高い技術で、安心・安全な社会を実現します。

当リリースに関するお問い合わせ先

メール：IR 担当 (ir@cybertrust.co.jp) 、広報担当 (press@cybertrust.co.jp)